特集：設備事例―東北地方の図書館

震災からの復興

― つながる図書館をめざして ―

熊谷　英樹

所在地：宮城県気仙沼市笹が陣3番30号
図書館延べ床面積：約3,221㎡
気仙沼市の人口：63,114人（平成31年4月末日現在）
気仙沼市の面積：約332.44㎢

まちの紹介

気仙沼市は宮城県の最北端に位置する太平洋に面した人口約６万３千人の都市です。沖合の海は三陸沖として，世界三大漁場の一つに数えられ，北から南下する寒流と南から北上する暖流が出会うことで豊かな漁場が形成され，生鮮カツオ，メカジキ，サメなどの水揚げ日本一の水産都市でもあります。

海は，豊かな恵みを人々に与えますが，一方で災禍をもたらすこともあります。2011（平成23）年３月11日の東日本大震災がそうでした。気仙沼市での死者は1,357人，被災家屋は15,815棟，被災した世帯は9,500世帯を数えました。震災から８年を経過した今，まだまだ傷が癒えたとまでは言い切れませんが，街は徐々にかつてのにぎわいを取り戻しつつあります。

図書館の紹介

気仙沼図書館は，1907（明治40）年に，町の篤志家から寄贈された児童書や雑誌を蔵書とする児童図書館がその始まりとされています。その後，1916年（大正５）年に町立図書館の認可を受け，四度の市町村合併を経て，現在に至っています。

昨年３月31日に開館した新しい気仙沼図書館の概要は，鉄筋コンクリート造３階建て，延べ床面積で3,221㎡，児童センターとカフェを併設した施設で，蔵書数は約23万冊となっています。正式な館名は「気仙沼市図書館気仙沼図書館」で，敢えて「市立」という名称は用いていません。それは，気仙沼図書館の始まりが市民からの図書の寄贈によるものであること，平成23年の震災で一部途絶えた企業はあるものの，多くの市内企業から定期的に図書の寄贈をいただいていること，平成28年から始めた「雑誌スポンサー制度」により，63社から122誌の雑誌の提供をいただいていることなど，市民の善意に寄って成立している図書館であることの宣言でもあるとの考えに拠るものです。

震災前の
気仙沼図書館

震災被害と応急開館

平成23年の大震災は，まちに甚大な被害をもたらしましたが，図書館も例外ではありませんでした。巡回中の移動図書館車「おおぞら号」は，津波に流されました。幸い，職員は避難して無事でした。図書館は，丘の上に立地していることから，津波による被害はなかったものの，地震によって１階と２階の接続部分にあたる２階の柱のコンクリート基部が砕け，捻じ曲がった鉄筋が露出。別棟の児童図書室も基礎とつながる柱部分が破断しました。

震災により落下した
本が散乱する館内